



ワイド パンツの 作り方

型紙あり



←サイトで最新の作り方が見られます

いるもの

- 表生地
- 2.5~3cm幅の平たいゴム ウエスト+10cm
すそにもゴムを入りたい場合は、すぼめたい足首の長さ+5cm×2
- 生地にあった色の糸 シャツペスパンのミシン糸60~90番
- 安全ピン ゴム通し用 ゴムの幅が広いので紐通しだと通しにくいので安全ピンがおすすめ
- ラックテープ アイロンでくっつく両面テープ
なくても作れるが、あると早くきれいに作れる。

オススメの生地

薄地~中厚地の生地 ツイルやギャバ、アムンゼン、厚手のニット

色柄の濃いものだと透けにくくてよい。

ポリエステルが入るとしわになりにくくなる。

同じ名称の生地でも、繊維の太さや加工によって柔らかかったり固かったり、風合いが異なる場合がある。

通販で買う場合、初めての素材はサンプルを取りよせると失敗せずにすむ。



**本番前に必ず
1/10 サイズを作って！**

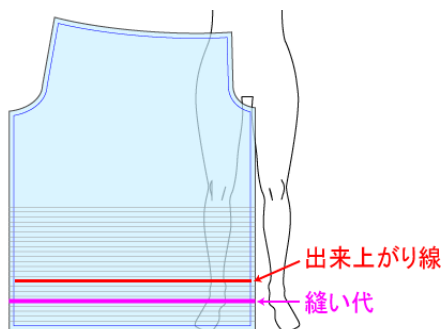
テープで組み立ててから
裁断に入ってください！！
勘違いや失敗が格段に
減ります！！



単色
表面

点描
裏面

うさこの型紙屋さんが作った型紙には1/10サイズの型紙がオマケで型紙の余白についています。
これを布を切る前に組み立てると、説明書の理解度が一気に上がります。
洋裁が、難しく感じるのは理解できないのではなく先が想像できないからです。
パズルと思ってテープで組み立ててみてください。
たった3~20ピース程度のパズルなんて簡単だと思いますか？



出来上がり線

縫い代

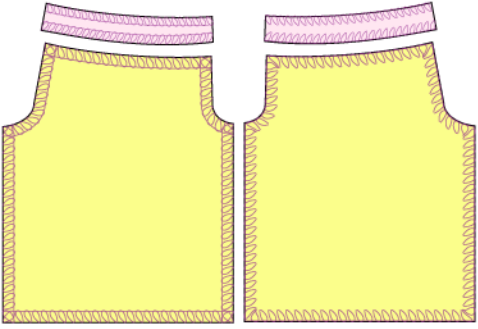
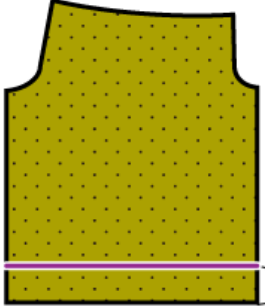
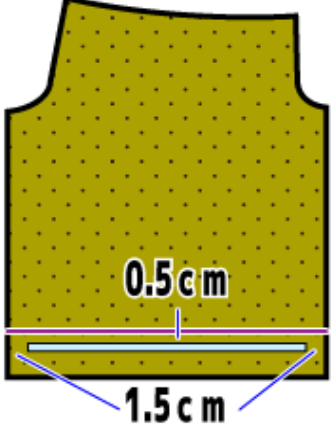
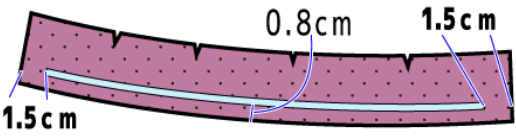
縫う前の下準備

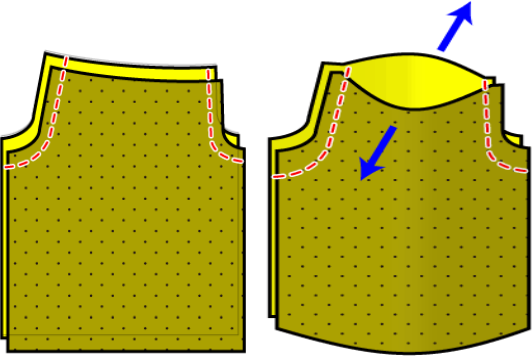
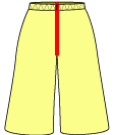
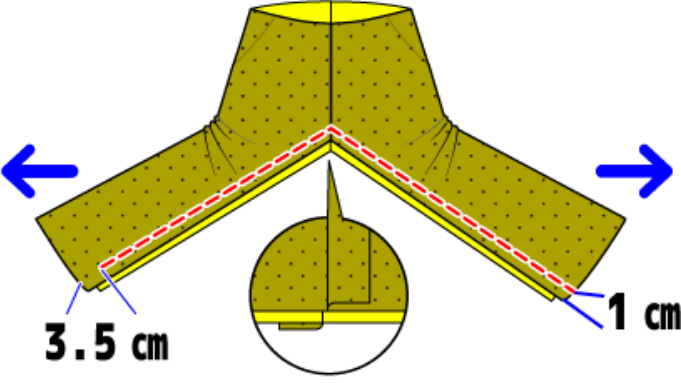
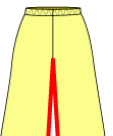
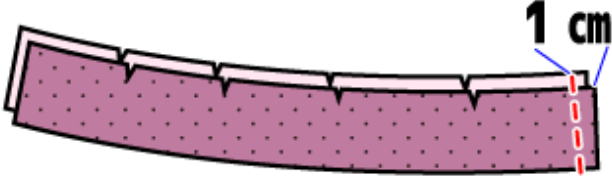
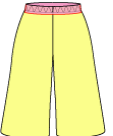
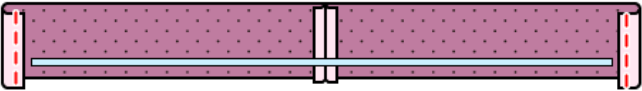
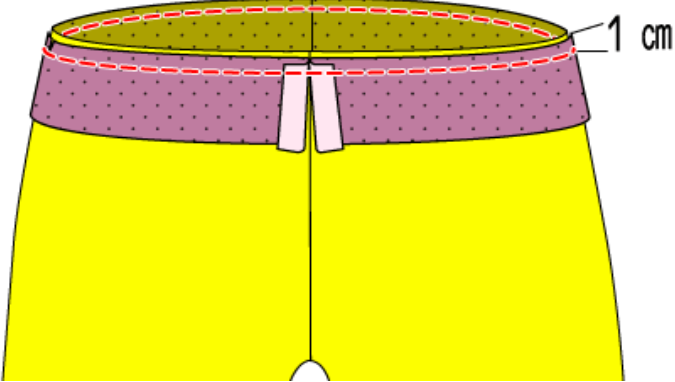
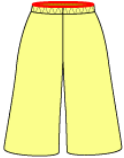
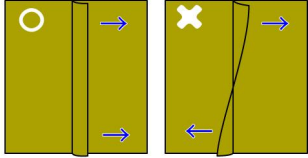


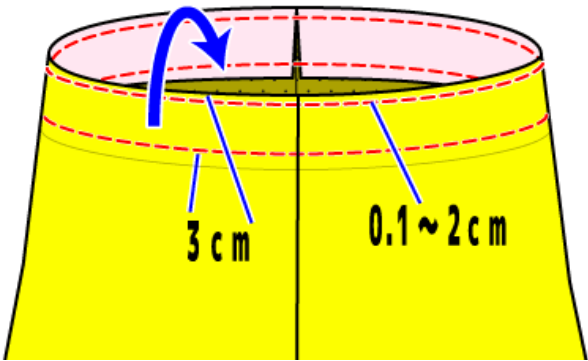
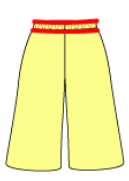
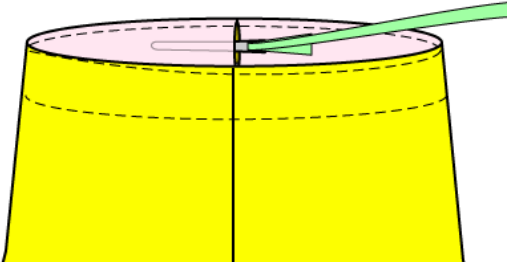
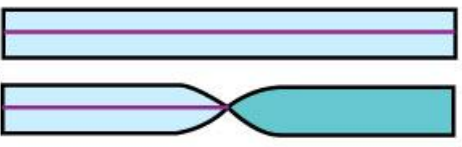
すそに複数の線があるので、
体に当てて自分の作りたい丈を
選ぶ。

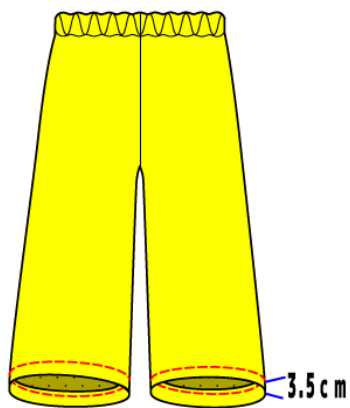
ゴムを入れる場合は選んだ線
の4cm、入れない場合は2cm
下で切る。

縫い代の幅が狭いと表に反り返りやすい。

	ほつれ止め ミ  左右対称に2枚切ったら、布の端がほつれてこないようにシンのジグザグの機能でほつれ止めをする。
 8cm 	ズボンの裏側のすそから、ゴムを入れる場合8cm、入れない場合4cmの所に<u>チャコペン</u>で平行線を引く。 まっすぐ縫うコツ  縫い代の折り方  中表 
 0.5cm 1.5cm 熱接着両面テープ 	ラックテープを持っている場合 裏返したズボンのすその補助線の5mm下に貼る。 この時点ではまだ剥離紙をはがさない。 点ではなく、面で固定できるのでズレが起こりにくく初心者でもきれいに縫いやすくなる。
 0.8cm 1.5cm 1.5cm	ベルトを裏返し、切り込みの印のない方の下から0.8cmの所に熱接着の両面テープを貼る。 この時点ではまだ剥離紙をはがさない。 両端を1.5cm離して貼る。

	 ズボンの生地を表同士が内側になるように重ねる。  股の上のカーブを1cm幅で縫う。 ←ゴムパンツの作り方動画 ベルトの縫い方が若干異なりますがそれ以外は同じです。 上の中央を持って左右に広げる。
	 待ち針の刺し方  左右に股が分かれるので、股の下をあわせる。 厚みを減らすため中央の縫い代を左右逆に折る。 すそにゴムを入れたい時は、すそから3.5cmゴム入れ口の為に縫わずにあけておく。 端から1cm幅で縫う。
	 ベルトの見返しという部品を表同士が内側になるように重ねる。 前中心側を1cm幅で縫う。
	ベルトの見返しの左右を裏に1cm折る。 端から0.7cm位の所を縫う。
	  ズボンとベルトを表同士が内側になるように重ねる。 後中心に両端をあわせ1cm幅で縫う。 股の上の縫い代がねじれないように気を付ける。

	 筒の縫い方  見返しを内側に入れる。 <u>熱接着の両面テープ</u>をつけた場合はここではくり紙をはがして、アイロンで固定する。 端から0.1~0.2cmと、上から3cmの所を縫う。
	ゴム通し  2.5cm幅のゴムを入れる。 ウエスト+5cmの長さでゴムを切る。 後ろ中心からゴムを入れる。
	ゴムに消えるペンなどで片面に横線を書いておくと、端を縫い合わせるときに中のねじれに気づきやすくなる。 裏表の区別なのでフリーハンドで適当に書いた線で問題ない。
	安全ピンでゴムを上のようにそのまま差すと端がほぐれて抜けたりしやすい。 下のようにゴムの端を折ってから刺すと裂けたりほぐれたりしにくくなる。
	洗濯ばさみでゴムの端を押さえておくと中に入り込まなくなる。  試着してきつくない程度の長さの所で手縫いでもミシンでもよいので、ゴムの両端をN字に縫う。



すその裏側に描いた補助線に、すその端を合わせて裏側に折る。補助線の所で折るのではなく、補助線に布端を合わせる。

ゴムを入れる場合は4cm、入れない場合は2cmの縫い代で折れる。

熱接着の両面テープをつけた場合はここではくり紙をはがして、アイロンで固定する。

ゴムを入れる場合は下から3.5cm、入れない場合は1.5cm幅で縫う。

